

第13代 高松ゆめ大使から応募者の皆さまへ

こんにちは!

第13代 高松ゆめ大使の井上七海です。

私は高松ゆめ大使の活動を通して、高松のことをより知ることができたと同時に自分自身が成長することができたと思います。

以前は、高松といえば「うどん」のイメージでした。しかし、活動を重ねてくことにより高松に関する知識が増えて、国内外の方々に「高松」を自信を持って説明できるようになりました。

最初は、自分が高松ゆめ大使としてやっていけるのか自信がありませんでした。

しかし、活動でさまざまな方々と出会い、高松ゆめ大使でなければ出来ない経験を積むことができました。

それは、今となっては自分の強みとなり、自信もつきました。私は、高松ゆめ大使になることができて本当に良かったと思っています。

高松をもっと国内外にPRしていきたい、地元に貢献したいと思っている方には是非応募していただきたいと思っています。

たくさんのご応募、お待ちしております!

みなさんこんにちは。

第13代 高松ゆめ大使の大沢享花です。

私は2年間の高松ゆめ大使の活動を通して、高松への愛が深まるとともに、多くのこと学び、多くの方と出会うことができ、自分自身も成長することができたと感じています。高松ゆめ大使での経験は、私にとってかけがえのない大きな財産になっています。

国内外のイベントに参加する中で、こんな素敵なのところもあったんだ!と高松の魅力を再確認することがあったり、「私、高松大好きなのよ」「今度旅行で行くよ」などと沢山の嬉しい言葉を頂いたり、やっぱり高松は素敵なのところ、地元以外の人にも愛されているのだと知りました。自慢のふるさとです。

高松ゆめ大使での活動の日々は、本当に素敵なもので、2年間があっという間でした。高松のゆめ大使になって本当に良かったと心から思っています。

2019年は瀬戸内国際芸術祭もあります。高松のことが大好きで、高松の魅力を多くの方に伝えたい、高松に貢献したい!と思っている方に応募していただけたらなと思っています。たくさんのご応募お待ちしております。

第13代高松ゆめ大使の溝渕友恵です。

2年間の出務を経て、自分がとても成長できたよう感じます。

式典などの公務や国際旅行博などのイベント出務を通して、多く方に出逢い色々な経験をいたしました。

18年も住んでいたのに知らなかった故郷である高松。

出務を通して高松についても多くのことを学びました!

是非、多くの方に高松ゆめ大使にチャレンジしていただきたいです!

そして、高松の観光をますます盛り上げてください!

自分を信じて、高松のことを好きな気持ちを伝えることが大切だと思います。

